

2026年 6 月26日 山梨県東部・富士五湖の地震

(1) 概要

2026年 6 月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生し、山梨県富士河口湖町で震度 6 弱を観測したほか、東北地方から中国地方にかけて震度 5 強～1 を観測した。また、神奈川県及び山梨県並びに静岡県で長周期地震動階級 1 を観測した。

気象庁はこの地震に対して、地震波検知から6.6秒後の22時29分09.4秒に緊急地震速報（警報）を発表した。

この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

今回の地震の震央周辺では、6 月26日以降 6 月30日までに震度 1 以上を観測した地震が 9 回（震度 6 弱：1 回、震度 3：1 回、震度 1：7 回）発生するなど、地震活動は継続している。

この地震により、負傷者22人の被害が生じた（2026年 7 月 6 日現在）。

この地震による被害状況を表 1－1 に、気象庁及び各地の気象台が発表した主な情報及び報道発表を表 1－2 及び表 1－3 に示す。

表 1－1 山梨県東部・富士五湖の地震による被害状況
(2026 年 7 月 6 日 14 時 00 分現在、総務省消防庁による)

都道府県名	人 的 被 害				住 家 被 害		
	死者	行方不明者	負 傷 者		全壊	半壊	一部破損
			重傷	軽傷			
	人	人	人	人	棟	棟	棟
埼玉県				2			
東京都				6			
神奈川県				3			
山梨県				8			
静岡県				3			
合 計				22			

(2) 地震活動

ア. 最近の地震活動

2026年6月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートが陸のプレートに衝突することに起因する地震と考えられる。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（図2-2の領域b）ではM4.0以上の地震が時々発生している。2012年1月28日には深さ18kmでM5.4の地震（最大震度5弱）、2021年12月3日には深さ19kmでM4.8の地震（最大震度5弱）、さらに、2024年8月9日には深さ13kmでM5.3の地震（最大震度5弱）が発生した。

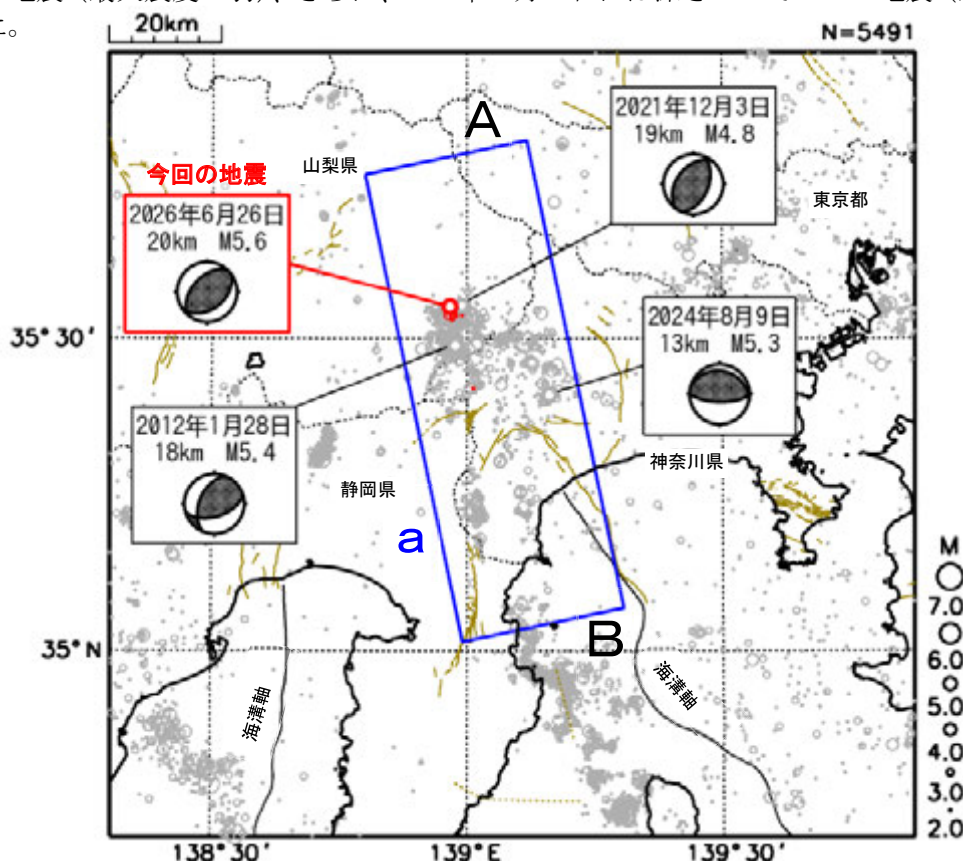


図2-1 震央分布図
(1997年10月1日～2026年6月30日、深さ0～60km、 $M \geq 2.0$)
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示

震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

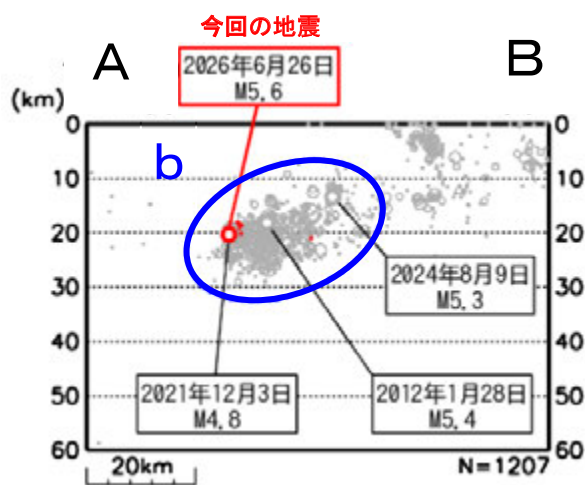


図2-2 領域a内の断面図（A－B投影）

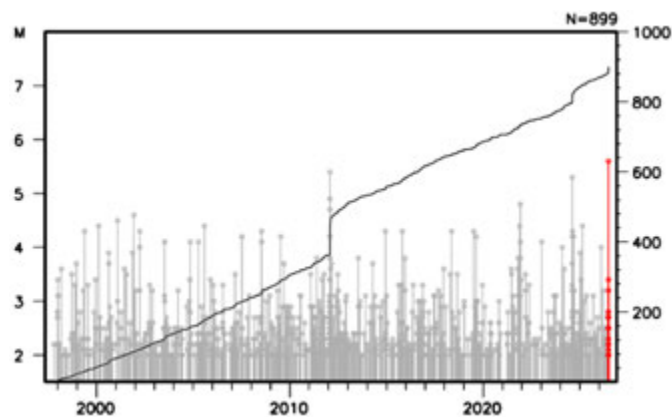
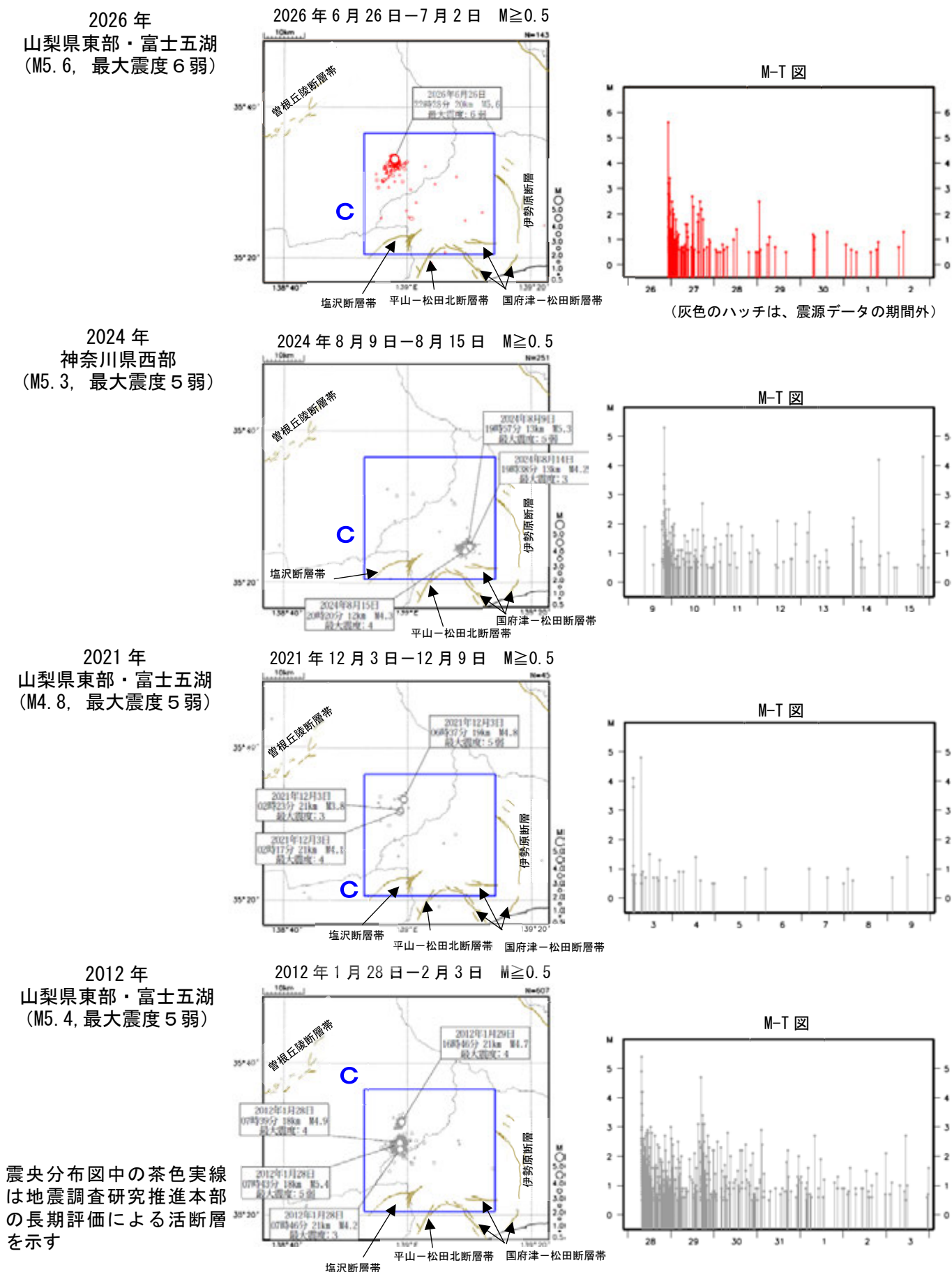


図2-3 領域b内のM-T図及び回数積算図

今回の地震の震央付近（領域c）で過去に発生したM5.0前後の地震（2012年、2021年、2024年、今回）の震央分布やM-T図の比較を図2-4に示す。



イ. 発震機構

1997年10月以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の圧力軸の分布を図2-5に示す。また、図2-5の領域d内の地震の発震機構の型の分布及び圧力軸の向きの分布を図2-6に示す。

今回の地震の震央付近では、逆断層型の地震が多く見られ、発震機構の圧力軸の向きは北西-南東方向の地震が多い。今回の地震(M5.6)は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

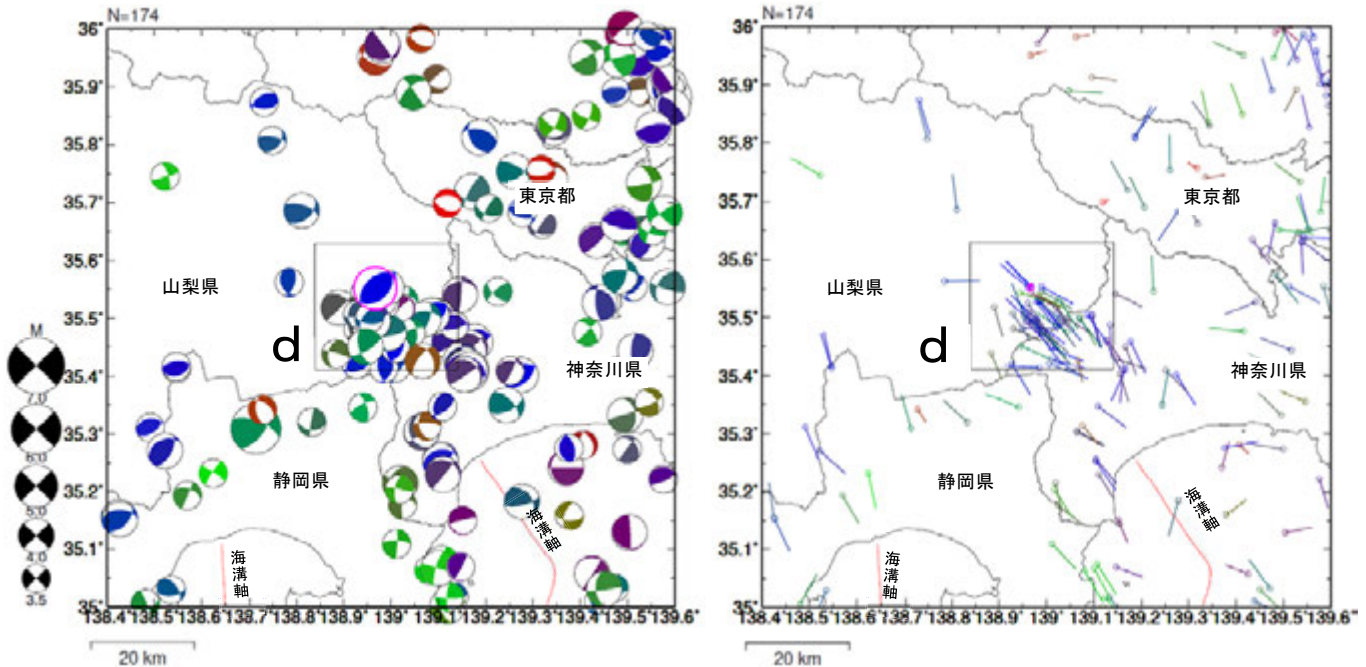


図2-5 発震機構分布図(左)、発震機構の圧力軸の分布(右)

期間：1997年10月1日～2026年6月30日、深さ：0～50km、 $M \geq 3.5$ 、発震機構は初動解による(震源の位置に表示)。逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示(Frohlich (2001)による分類)。

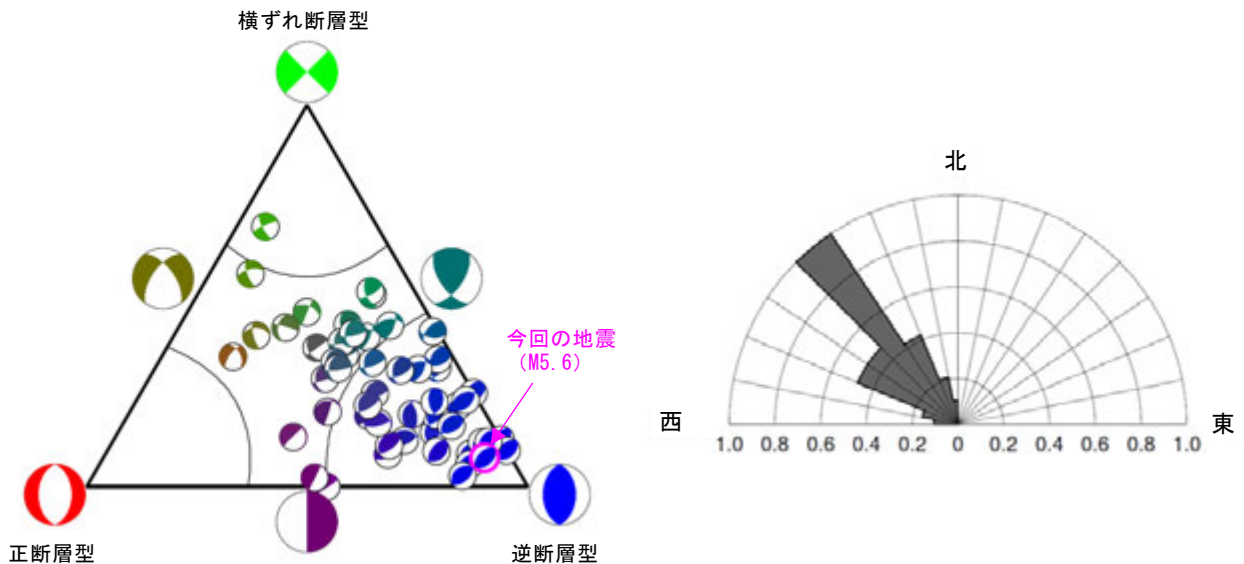


図2-6 図2-5の領域d内の地震の発震機構の型の分布(左)及び発震機構の圧力軸の方位分布(右)
発震機構の型の分布は、逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示(Frohlich (2001)による分類)。

ウ. 過去の地震活動

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 e）では、大正関東地震（1923 年）後 10 年程度は M6.0 以上の地震が複数発生しており、それ以降では 1983 年 8 月 8 日に発生した M6.0 の地震（最大震度 4）が発生し、死者 1 人、負傷者 33 人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

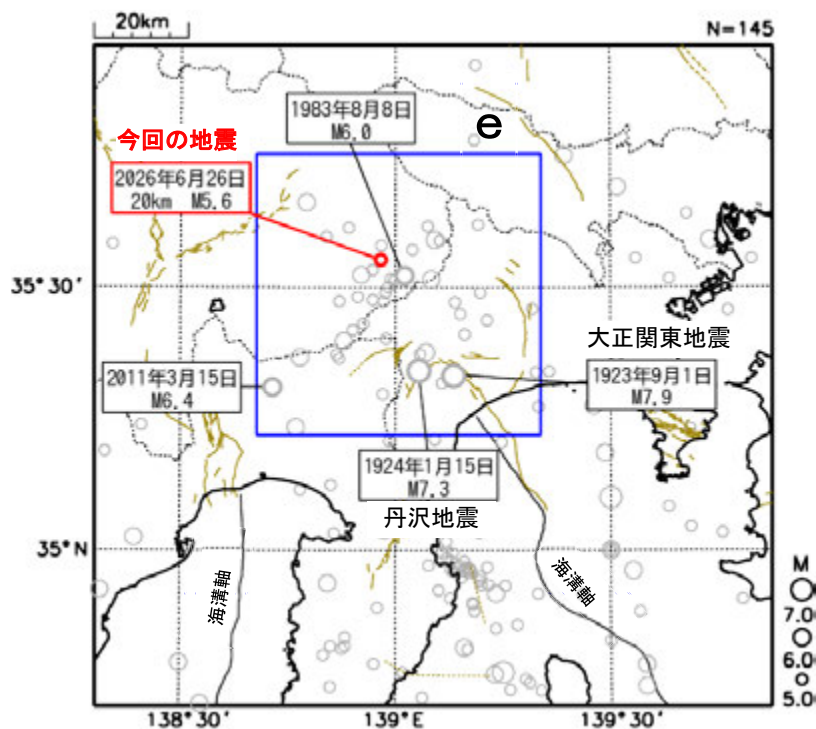


図 2-7 震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 6 月 30 日、深さ 0 ～60km、 $M \geq 5.0$)
2026 年 6 月 26 日以降の地震を赤色で表示

震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

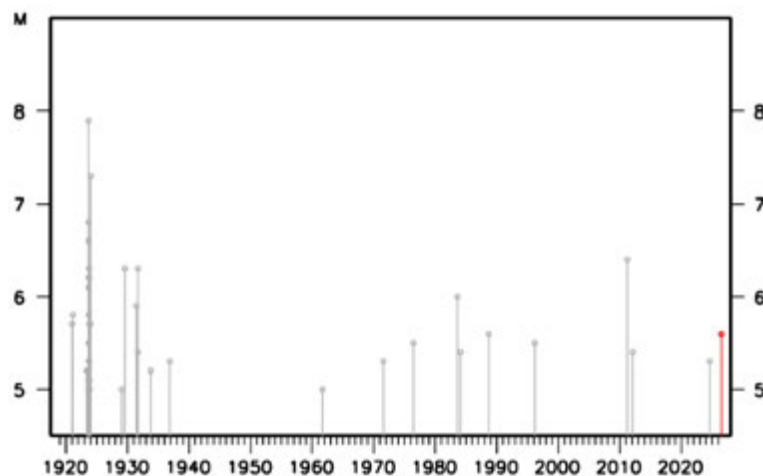


図 2-8 図 2-7 の領域 e 内の M-T 図

(3) 震度と加速度

2026年6月26日22時28分に発生した地震（M5.6）により、山梨県富士河口湖町で震度6弱を観測したほか、福島県、関東地方、中部地方、近畿地方及び鳥取県で震度5強～1を観測した。この地震の震度分布図を図3-1に、推計震度分布図を図3-2に、震度5弱以上を観測した地点の計測震度及び最大加速度を表3-1に示す。

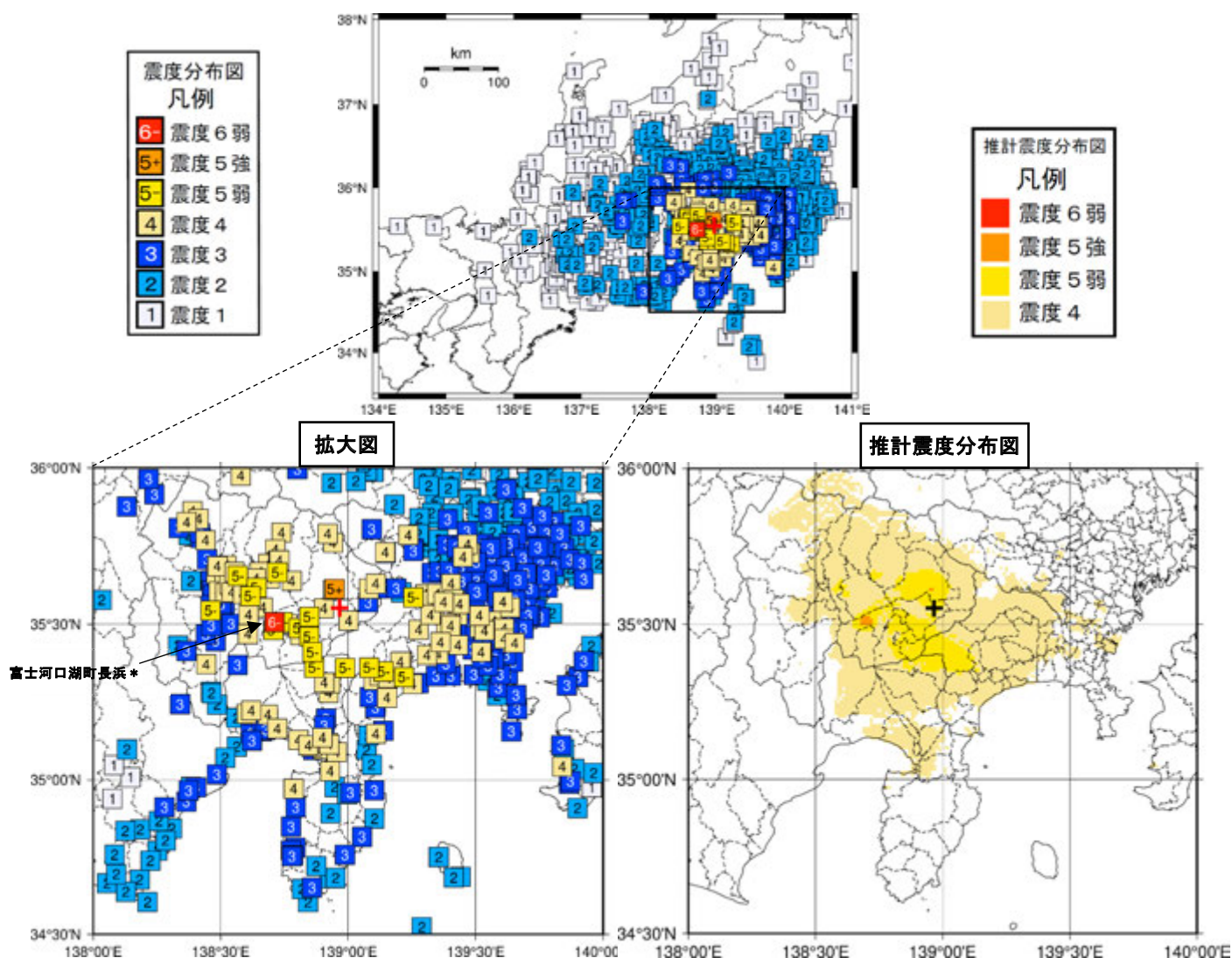


図3-1 2026年6月26日22時28分 山梨県東部・富士五湖の地震（M5.6、最大震度6弱）の震度分布図

図3-2 2026年6月26日22時28分 山梨県東部・富士五湖の地震（M5.6、最大震度6弱）の推計震度分布図

観測点名の*印は、気象庁以外の震度観測点を示す。
図中の+印は震央を示す。

※本推計震度分布図は、地震発生当日に作成されたものである。

<推計震度分布図について>

地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがある。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれるため、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがある。

このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目して利用されたい。

なお、この推計震度分布図は震度の精査後に再作成したものであり、地震発生直後に発表したものと一部異なる。